

平成30年度 政務活動費 調査報告書

会派名	市政協同
議員名	岡田健一・南川達彦・鈴木和彦・黒光ひさ
調査実施年月日	平成30年5月10日(木)、11日(金)
調査先 自治体名等	日本自治創造学会
調査項目	大会テーマ「人生100年時代の地域デザイン」
調査目的	将来の日本の方向性や課題や課題解決に取り組む地域先進事例の調査
報告内容	<p>～大会1日目～</p> <p>① 講演「人生100年時代の人づくり革命」 講師：高橋進氏 ((株)日本総合研究所理事長)</p> <p>【講演内容】</p> <p>冒頭、政権の政策立案にかかわる高橋氏から現政権が進める政策の背景と目的についてのお話をいただいた。特に地域が関わる人口対策・労働参加率の引き上げと生産性引き上げについての詳しい説明があった。この課題は関連性があり、働く人の掘り出し「1億総活躍」(女性・高齢者の雇用推進+外国人労働者の雇用)→能力を引き出す「働き方改革」(労働環境の改善)→働く人一人一人レベルアップ「大学改革」(教育改革)というアプローチで政策を組み立ており、この政策はこれから具体的に進められ、舞台は地域であり、地域の積極的な関わりが期待されているとのことであった。</p> <p>② パネルディスカッション「若者たちの挑戦—人口減少社会の地域デザイン—」</p> <p>山崎亮氏(コーディネーター)の講演の後、パネラーの事業や活動紹介の後にパネルディスカッションが行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山崎亮氏 ((株)studio-L代表取締役) 若者とのかかわり方、コミュニケーションの取り方は見直さなければ成功しないというお話から、兵庫と大阪でのパークマネジメント(公園設計と運営)の事例を紹介し、コミュニティデザインにおける地域が担うことが出来る役割について説明をいただいた。また、秋田市の高齢者の健康増進施策を例に、課題の深い原因分析の必要性と複合的に課題を解決させる観点を持つことについての話があった。 ・伊藤文弥氏 (NPO 法人つくばアグリチャレンジ副代表理事) つくば市での障がい福祉と農業による事業を立ち上げ、レストラン、鶏舎の運営まで拡大してきた事例を紹介。 ・横山太郎氏 (Co-Minkan 普及実行委員会共同代表・医師) 「つどう・まなぶ・むすぶ」という公民館の機能に注目した新たな地

域のコミュニティを作る取り組みについて紹介。

・リ ヒョンシギ氏 (NPO 法人 Learning for All 代表理事)

NPO 法人 Learning for All による学童保育、学習支援事業などのこどもの貧困対策の事例を紹介。

・井上貴至氏 (総務省<現在、愛媛県市町村振興課長>)

中央省庁から出向した自治体で関わった地域活性化の取り組み事例の紹介。

パネルディスカッションでは、若い世代が地域で活躍するために自治体や議員の関わり方、起業する前後での地域との関り、事業の継続への課題、

③講演「人生100年時代の政府の取り組み」

講師：菅 義偉氏 (内閣官房長官・衆議院議員)

現在、国政の中心で国づくりを進められる立場から見た日本の現状について、また政府の進める政策の成果と今後の展望についてを中心にお話があった。また、ふるさと納税などを例にこれまでの地域への権利の委譲が進められてきていることについてのお話があり、これから頑張る地域には支援を行うという政府の姿勢を説明されました。

～大会2日目～

① 講演「これからの日本をどうする」廃県置州で新たな国づくりを

講師：佐々木信夫氏 (中央大学名誉教授)

【講演内容】

冒頭、これまで続いた47都道府県に代わる、新たな国のかたち10州2都市州といった日本型州構想の実現を求める。それが真の地方創生、日本再生の道ではないか。これまで幻の改革構想と挫折を繰り返してきた道州制案だが、どこに阻む壁、問題があったかを総括し、実現可能な大、中都市をベースとする多極分散国家型の新たな日本型州構想、新たな日本の形を提案したいと述べられた。その後、財政や人口面、高速網整備、憲法改正、人口減少時代の国のかたち、どう実現するか日本型州構想について、現状や考え方、進むべき方向について説明がされた。

② 講演「空き家対策と活用策」

講師：伊藤明子氏 (国土交通省住宅局長)

【講演内容】

空き家の現状、都道府県別の空き家の状況、空き家対策の方向(地域特性を応じた対応)、空き家対策の概要、空き家対策等の推進、安心R住宅(特定既存住宅情報提供事業者団体登録制度)、新たな住宅セーフ

ティネット制度の枠組み、農地付き空き家の活用策（手引きの作成、宍粟市の取組事例）、建築基準法の一部を改正する法律案の概要、所有者不明土地の利用の円滑化等に関する特別措置法案について説明がされた。

③ 講演「日本の目指す道」

講師：新藤義孝氏（元総務大臣・衆議院議員）

【講演内容】

世界情勢、日本情勢について説明があり、その後、政府の進める政策の成果と予算・法案の重点施策、今後の展望について、さらに大臣任期中の私案、トップセールスの内容、防衛力の整備、平和安全法制、憲法改正等について説明がされた。

④ 講演「人口減と対峙する地方議会」

講師：北川正恭氏（早稲田大学マニフェスト研究所・元三重県知事）

【講演内容】

冒頭、司法においては司法改革（裁判員制度）、行政においては行政改革（国営企業の民営化、12省庁再編等）、立法においては政治改革、選挙改革（公職法改正等）が進められてきた経緯や状況について述べられ、地方議会・議員のあり方については、新しい価値を見出してはいけないこと、新しい議会を覚悟を持って進めなければならないと述べられた。その後、中央集権に対し、自治中心に持っていく、地方から進めなければならないこと、改革は地方が変わり国が変わるという考え方が大切であり、公職議員は主権者の民意の反映、代表であるがゆえに議会は議案を否決することもあると考えなければいけない。集権から分遣に変わっていることを認識する必要があり、地方から国を変えるための地方創生で、進めば進むほど条例制定機能を要する議会力が必要になる。また、対等に政策立案していかなければならない。今後は議会基本条例の制定に向けた議論が必要であり、それがなければ創生にはつながらない、合わせて議長の職務権限、あり方も議論する必要がある。定数削減や政務活動費削減ではなく議会報告会や意見交換会といった見える議会を進めなければならないと、県議会議員、衆議院議員、知事といった経験からの話があった。

⑤ 講演「ごちゃまぜ共生社会で創る日本の未来」

講師：雄谷良成氏（社会福祉法人佛子園理事長）

【講演内容】

動画による各施設の状況を視聴し、その施設に就労する方、訪れる方、地域住民の方の様子などの説明がされた。その後、佛子園メソッドの特徴や、高齢者にやさしい都市とは生涯活躍のまちへの応用であること、すべての人は役割を持っている、すべての人が機能するといった考え方、人と人のつながる力について（生きがいと生存率の関係、人生

	<p>の目的と要介護発生リスクの関係、地域活動への参加率と要介護認定率の関係)、地域はターニングポイントを迎え時代は参加する社会になっていること、ごちゃまぜは第三の医療、人と人とのつながりと健康のメカニズムについて、事例を交えて説明がされた。</p>
<p>感想 (まとめ) 本市へ生かせること等</p>	<p>2日間の大会を通して、日本の経済状況や政府の考え方、経緯を改めて学び、中央集権から地方分権へと変化してきた中で、これから日本と地方自治体が直面する課題についての国の取り組む方向性、そして、その課題に対して地方自治体としてどう対峙するべきなのか、官民様々な角度からの考察をうかがうことが出来たことは、本市が今後の向かうべきまた取り組んでいく姿勢を考える上で非常に参考になった。さらに議会としての活動を今後どのように検討していくべきなのか参考になった。</p> <p>地方で取り組む事例の紹介では、若い力との関わり方が地域に活力をもたらすこと、若い力を活用するためにはどのような姿勢で臨まなくてはいけないのかなど、実際に最前線で活動している若い世代の方々からの生の声を聴くことができ、今後自治体で若い力を活用するための心構えとアイデアを学ぶことが出来た。</p> <p>また、共生社会の実現は障害のある方、ない方の人と人とのつながりをどのような考えや方法で進めていくのか、そしてまちづくりにおいても重要なことであると感じた。そして人間にとって、やりがいを持つことの大切さを学ぶことが出来た。</p> <p>今回の講演やパネルディスカッションを通じて、講師の方々が多様な視点や観点からの意見や提言、さらに先進的な事例も紹介された内容であり参考になることが数多くあったと感じた。</p>